



災害の黙示録

「地霊」の黒い陰

岡田光正

「地霊」は崇めれば守り神に…
しかし傷を負わせると報復される
多くの災厄や災害、原発事故など、
悲惨な事例がそれを物語っている

建築防災の専門家が解く地霊の本

彰国社

「地霊」の黒い陰

災害の黙示録

まえがき

地霊の存在に気づいたのは、死者一一八名という「千日デパート火災」の土地が刑場と墓地の跡地だったことを知ったときでした。この「千日」という地名は、ここに葬られていた二〇万人もの人びとを供養するための千日念仏が行われていたからです。仕置場ですから、処刑された人も多かつたと思われまます。

その後、災害や悲劇のあつた場所には地霊の影がある場合も多いことがわかりました。地霊とは土地の歴史であり、土地に蓄積された記憶です。とくに刑場とか大量死の跡地や重大な事件のあつた場所や強烈な記憶の残る場所には恨みや呪いが地霊として残っているのです。

東京大手町の将門塚は、たんに平将門の首塚ということだけではなく、伊達騒動にかかわって、この地で惨殺された仙台藩の重臣たちの恨みが蓄積されていると考えなければなりません。このように非業の死を遂げた人びとにかかわる土地では当然、地霊の力も強大です。

昔の人は、このような土地の記憶、つまり地霊を瘵地まぢなどという名前で後世に伝えようとした。瘵地とは、立ち入りたり木を切ったりすると祟りがあるという土地で、タタリ地、ノロイ地などと呼ばれることもあります。刑場や荒神や塚の跡とか争いや多数の死者が出た跡などと伝承されている場所が多いようです。

しかし、全ての災害や悲劇について地霊との関係を見出すことはできないでしょう。関係がありそうなケースでも、それは偶然かもしれないし、偶然ではないかもしれません。ほかにも災厄との関係が疑われる事例もありますが、すでに多くの人が住んでいるとか、高級マンションが建つていたりするところもあつて、さしさわりがありますので、あえて触れないことにしました。

土地の物理的な歴史も地霊になつていると考えられます。たとえば土砂災害などが予想されるとして当局が危険地区に指定しようとしても住民の反対が強くて、指定できないこともあるようです。指定されると地価が下がるからでしょうが、その結果、重大な被害が発生した例もあります。

地霊は尊重すれば守護神になりますが、傷つけると災厄を招くことがあります。しかし、神の存在が証明できないように、地霊の存在も証明することはできません。したがって地

霊なんて信じられないという人も多いでしょう。だが、地霊を尊重すれば被災を免れたのではないかと考えられる事例も多いのです。

日本という有数の災害列島において、少しでも被害を少なくするためには、開発や工事にあつて地霊を傷つけることのないように心がけるべきだと思います。また、それによつて環境を保全することもできるのではないかということから読み物としてまとめました。

本書では、多くの諸先輩の研究や調査の成果を参照し、引用もさせていただきました。また、宮崎興二氏と安達哲郎氏には格別のお世話になり、さらに彰国社の後藤武会長ほかスタッフの方にはご苦労をおかけいたしました。ここに、あらためて全ての方々から御礼を申し上げる次第です。

二〇一五年二月

岡田光正

まえがき

1 盛り場にひそむ地霊の闇 13

横井座の悲劇

横井座とはどんな劇場だったのか

千日前は仕置場だった

上方歌舞伎の衰退

一一八名が死亡した千日デパートの火災

工事中の売場から出火

出火の連絡はなかった

客は悲鳴をあげてエレベーターに殺到

無傷で助かった人もいた

利用されなかった階段
悪質な経営者

2 ビル街に残る将門の記憶 39

大蔵省の首塚事件

崇り神としての将門

日比谷は入江だった

将門の霊よ このとおり謝る

大手町官庁街の火災事件

守り神としての将門

将門塚と伊達騒動の悲劇

3 鉄道に踏みにじられた地霊 59

骨ヶ原での腑分け

小塚原とはどんな所だったのか

吉田松陰の処刑

大老を暗殺した水戸浪士はどうか
刑場を分断した鉄道線路

一六〇人が死亡した三河島事故

第一の事故

第二の事故

第三の事故

三河島事故の原因

失われた天守閣

4 台地にひそむ地霊の黒い陰

87

淀川大洪水で河内平野は海に

河内湾から河内湖へ

淀川の歴史は堤防の歴史

人柱の運命を分けたのは何か

人柱伝説は地霊からのメッセージ

八十島は国生みのモデル

八十島祭は国土安泰の祭り

生後九カ月で即位

幼帝の時代

石山本願寺に始まる大坂城の歴史

石山合戦

豊臣政権の崩壊は地霊の怒りから

大坂城築城から始まった秀吉の異常な行動

豊臣家の最後

栄光の聖母マリア

5 震災で浮かび上がった地霊

133

母への最後の手紙

新婚の妻へ

幼い子供へ

幼い妹への手紙

特攻とは何だったのか

特攻は作戦の外道

福島第一原発の敷地は特攻隊の基地であった

高台を二五メートルも削った原発の敷地

予測されていた津波の高さ

無視された警告

四つの調査委員会

福島第一原発が犯した二重の誤り

女川原発が津波から守られたのは何故か

大津波を予言していた末の松山

津波は神社と旧街道の前で止まった

6 地霊の声は防災の原点

169

沖の百万坪

地名には地霊が隠れている

失われた地名

呪われた暗渠

地霊のカテゴリー

ゲニウス・ロキ

地霊とは土地の記憶であり歴史である

地震圧殺は重大な結果をまねく

地霊の光と影

地鎮祭は地霊の祀り

災害の歴史は地霊圧殺の歴史

思いますが、わが国の刑法では、大会社の社長とか上級幹部が実刑の判決を受けることは、ほとんどありません。経営者の責任は「事故を予見できる可能性があったかどうか」によって判断されるからだといわれています。これは鉄道事故でも航空機事故でも、さらには今回の福島第一原発事故でも同じです。

火元のニチイはマイカルと改名しましたが、その後、経営破綻して大手の量販店に吸収されたようです。建物の所有者だった日本ドリーム観光(株)も経営不振で他社に吸収合併され、同じオーナーが経営していた雅叙園観光(株)も倒産しました。つまり、この火災事故に関係した会社は、全て消滅したことになります。

「横井座の悲劇」に始まり、「上方歌舞伎の衰退」から「千日デパートの火災」と不幸なことが続きました。これは偶然とかタマタマというには災厄が多すぎるように思います。ここでは多くの人が世を恨み、世を呪いながら死んでいるのです。このような土地には何か眼に見えない力が地霊となつてひそんでいるのではないのでしょうか。

2 ビル街に残る将門の記憶

大蔵省の首塚事件

わずか二年の間に大蔵大臣をはじめとして、大蔵省の幹部一四名がバタバタと死亡するという出来事がありました。この中には宮繕局工務部長、政務次官など高級官僚も含まれていました。このほかにも多くの人が庁舎内で転倒して負傷したり、病気になったりしたそうです。一九二三年（大正一二年）、関東大震災の跡地に、大蔵省が仮庁舎を建てたときのことでした。

ここは明治維新までは江戸城大手門の前にあたり、譜代大名の屋敷が並んでいたところで、その最前列に酒井雅楽頭の屋敷がありました。酒井家は徳川家とは先祖を同じくする一族であり、譜代筆頭として有事の際には大老職を務めるといふ家柄で、大老や老中を輩出しています。徳川幕府では譜代の井伊、酒井、土井、堀田という四家以外は大老になれなかったのです。

酒井忠清は弱冠二九歳で先任の老中たちを飛び越えて老中首座として入閣しました。忠清は、病弱だった四代將軍家綱の下で権勢を振るったことや、屋敷が大手門のすぐ前で、

そこに下馬札があつたことから「下馬將軍」の異名がありました。いま、將門塚の敷地には「酒井雅楽頭上屋敷跡」という立札がたっています。

崇り神としての將門

平安時代の中ごろ、下総の武將、平將門は九三九年（天慶二年）、坂東で朝廷に反乱を起して挙兵し、周辺の武士や農民の支持を集めて新皇を名乗ったものの、わずか三カ月で討ち取られました。將門の首は京都に送られ、獄門にかけられましたが、『太平記』（巻第十六）によれば、首は、

「三月マデ色変ゼズ、眼ヲモフサガズ、常ニ牙ヲカミテ『斬ラレシ我が五体何レノ処ニカ有ラン。ココニ来タレ。頭ツイデ今ヒト軍セン』ト夜ナ夜ナ呼リケル間、聞ク人コレヲ恐レズトイウ事ナシ」

というありさまで、ついには虚空を飛んで武蔵の国に帰り、落ちた所が江戸の芝崎村で、

今の大手町でした。

もとより首が京都から飛んできたというのは伝承で、実際は将門ゆかりの僧が京へ上り、関係者に祟りが起こると説得して首を取り戻したそうです。このあたりの事情について、現地には「首塚の由来」として次のような説明が掲げられています。

天慶の乱の頃は平安朝の中期にあたり、京都では藤原氏が政権をほしいままにして我が世の春を謳歌していたが、遠い坂東では国々の司が私欲に汲々として善政を忘れ、下僚は収奪に民の膏血こうけつをしぼり、加えて洪水や早魃えんばつが相続き、人民は食なく衣なく、その窮状は言語に絶するものがあつた。その為これらの力の弱い多くの人々が将門によせた期待と同情は極めて大きなものがあつたので、今もつて関東地方には数多くの伝説と将門を祀る神社がある。このことは将門が歴史上朝敵と呼ばれながら、実は郷土の勇士であつたことを証明しているものである。また天慶の乱は武士の台頭の烽火であると共に、弱きを助け、悪を挫くじく江戸つ子の気風となつて、その影響するところは社会的にも極めて大きい。茲こゝにその由来を塚前に記す。(将門塚保存会)

それにしても将門の首塚が出身地の下野でなく武蔵国の芝崎村にあつたのはどうしてでしょうか。これについては将門の死後、一族が下野国から逃れて柴崎村に來たという言い伝えがあるそうです。なぜ芝崎村かというと、ここには安房あわ神社があり、かつて将門は同系の神社に太刀などを奉納したという縁ゆかりがあつたからだといわれています。つまり芝崎村には将門に縁のある人びとが住んでいたのでしょう。

当時このあたりは海岸でしたが、村人は首塚を立てて祀りました。ところが長い年月の間には供養もおろそかになり、塚は荒廢して疫病が拡がり、人びとを悩ませていました。将門は崇り神になつたのです。

鎌倉時代の終わりごろになって、踊り念仏の時宗二世の真教上人が柴崎村を訪れました。上人は住民の願いを聞いて首塚を供養し、さらに村の神社を修復して将門公の靈を明神として祀り、何とか崇りをおさめることができたとのことです。さらに人びとの求めに応じて上人は村にとどまり、念仏道場を開きました。その後、明神は神田山に遷され、神田明神といわれるようになりました*1。

*1 林羅山『本朝神社考』（成立年不詳）および宮元健次『神社の系譜』光文社新書、二〇〇六など

日比谷は入江だった

家康が江戸に入ったところ、日比谷は文字どおり谷筋で「日比谷入江」と呼ばれ、入江の向こう側には「江戸前島」が神田山から半島状に伸びていました。首塚のある芝崎村は江戸前島の付け根のあたりにあったのです。幕府は江戸城の拡張、整備にあたり日比谷入江を埋め立てて大名屋敷にしました。

城の正面、大手門の前には譜代大名の屋敷を配置し、将門の首塚のある場所は酒井雅楽頭うたのかみの屋敷でした。酒井家は譜代筆頭でしたから、大手門の正面という場所が割り当てられたのでしょうか。以後、将門の首塚と、それを祭神とする明神は酒井家の屋敷内に祀られていました。しかし、大名屋敷の中に神社があるのは具合が悪かったのか、一六〇三年（慶長八年）、明神は駿河台に遷されましたが、首塚だけは酒井家の屋敷内に残りました。このとき首塚もあわせて移す予定でしたが、将門が夢枕に立ち、

「首塚を動かすな。動かせば徳川家に末代まで祟る」



図 2-1 将門塚

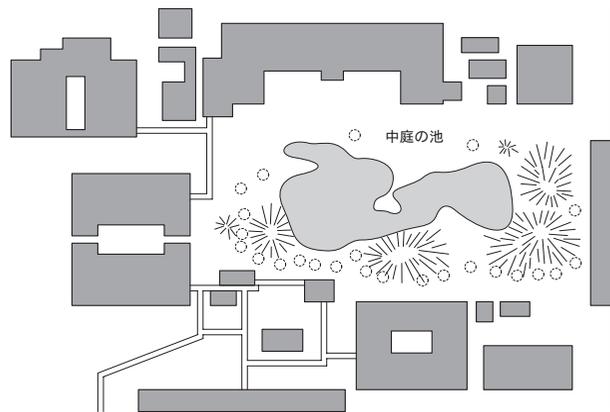


図 2-2 明治初期の大蔵省の中庭の池

と言ったので、首塚だけは残されたという言い伝えがあるそうです。夢枕というのは作り話だと思いますが、関係者が祟りを怖れたことが伝承になったのでしょうか。

ここには三百坪ほどの蓮池があつて「神田明神の御手洗池」と呼ばれており、池のそばには「将門塚」だとされる盛土がありました。この池と盛土は、江戸の「切絵図」という当時の市街地図（*2）や明治初期の地図（*3）にも載っていますので、あつたことは間違いないでしょう。しかし、この地図では池の大きさは三百坪もあるようには見えません。三百坪というのは、池の周りの土地も含めた面積ではないでしょうか。それに「将門塚」だという盛土も、高さ六メートル、周囲二七メートルほどで、織田完之氏によれば、

「敷地内に大きな池があり、そのほとりに塚がありました。樅の木、椎の木などの巨木が茂り昼なお暗く鬼気迫るものがあつた」（*4）

そうです。関東大震災直後に現地を訪れた鳥居龍蔵氏も、盛土は古墳だった可能性が高い

と書いています（*5）。

将門の霊よ このとおり謝る

これは一九二八年（昭和三年）三月二七日の東京朝日新聞の見出しになったコメントです。死者や病人が続出した大蔵省が「怨霊鎮めの祭り」を執り行ったことを伝える記事でした。酒井家の屋敷跡は大蔵省と内務省の敷地になり、首塚は敷地内の一角に保存されていました。関東大震災で塚が崩れたので、塚の跡を整理するという名目で発掘したところ、小さな石室が出てきました。たぶん石棺だったので、政府は石室を壊して蓮池も埋めていて、中には目ぼしい物は残っていなかったため、政府は石室を壊して蓮池も埋めてし

*2 『江戸東京さんぽマップ』平凡社、一九九五年所載の尾張屋版「江戸切絵図」

*3 陸軍部測量局による一八八四年（明治一七年）の都市図（江戸東京博物館所蔵）

*4 織田完之『平将門古蹟考』、一九〇七、『神田明神史考』同刊行会編、一九九二

*5 鳥居龍蔵『上代の東京と其周囲』磯部甲陽堂、一九二七 鳥居は人類学者で、学歴はなかったが東京帝国大学助教授、国学院大学、上智大学などの教授を歴任。